



深谷市職員・スキー選手
はしづめあつし
橋詰厚さん

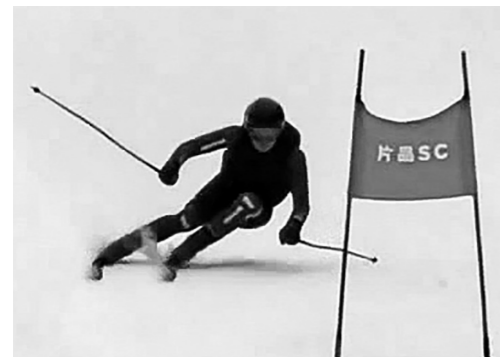
家族の支えを背に 続ける挑戦

市職員の橋詰厚さんは、3月15日に群馬県利根郡片品村で開催された第50回全日本マスターズスキー選手権尾瀬かたしな大会の、第1戦男子A(35歳代)の男子アルペン大回転で優勝を飾りました。

橋詰さんは、3歳からスキーを始め、両上肢機能障害がありながら、特注のストックを手に実力をつけ、国民スポーツ大会冬季大会に12回出場するなど、家族に支えられて活躍を続けてきました。

今大会で優勝したときの気持ちを「2年前にけがをして、競技復帰をした初めてのシーズンだったので本当にうれしかったです。」と話す橋詰さん。第48回大会の優勝直後の競技中に、右膝前十字靭帯を断裂してしまい、今回のシーズンは新たな挑戦だったといいます。

この長く険しい全治1年の大けがを乗り越えられたのは、2人のまな息子からの「もう1回パパが表彰台に立つところを見たい。」「また僕たちにメダルを掛けてほしい。」という言葉がきっかけでした。

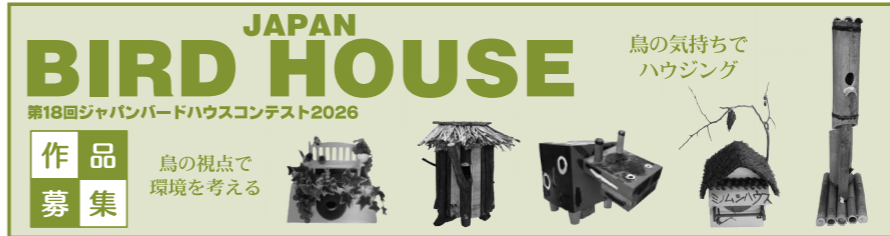


▲大会本番に向けて練習走行をする橋詰さん

こどもたちの言葉を胸にリハビリとトレーニングに励み、見事優勝を果たした橋詰さんは「日ごろから支えてくれる家族、特に妻に感謝です。」と話し、「こどもたちにメダルを掛けたらすごく喜んでくれました。」と、明るく優しい笑顔がこぼれます。

今後について「心のともしびが燃え続けるまで、競技を続けたいですね。」と語る橋詰さんは、市職員とスキー選手の二足のわらじを履き、家族と一緒に競技人生を歩み続けます。

『第18回ジャパンバードハウスコンテスト2026』作品募集



第17回ジャパンバードハウスコンテスト最優秀賞作品『たけとり ものがたり』

第18回ジャパンバードハウスコンテスト応募用紙はこちらから

ジャパンバードハウスコンテストは、遊び心を大切に、鳥の視点で都市の環境を考え、人と人、人と自然とのコミュニケーションづくりを目指します。

【募集内容】
オリジナリティあふれるユニークな作品
※デザインやアイデア、技術面などをトータルして審査

【賞の内容】
最優秀賞(1点) 副賞(クオカード)1万円、記念品

優秀賞(一般の部、小学生の部でそれぞれ1点)
副賞(クオカード)5,000円、記念品

特別賞(数点) 副賞(クオカード)2,000円

【応募用紙】 ふかや緑の王国のほか、市役所本庁舎総合案内、公民館で配布(市ホームページからも入手可)。

【申し込み】 6月1日(月)~9月30日(水)に、作品と応募用紙を直接または郵送でふかや緑の王国へ
※詳しくは上記の問い合わせ先へ

ふかやオープンガーデン『ばらの庭・初夏の庭』

“一番きれいなバラを見ていただきたい”
今年も特別公開として、35軒がオープンガーデン『ばらの庭・初夏の庭』を公開します。バラが一番きれいに咲くこの時期に、ぜひご覧ください。

とき 5月2日(土)、3日(日)、9日(土)、10日(日)、16日(土)、17日(日)午前9時~午後4時

問い合わせ 深谷オープンガーデン花仲間 栗原さん ☎090-7183-3481

※自家用車でお越しの際は、交通ルールを守り、他の見学者や車の通行、ご近所に迷惑が掛からないようお願いします。

※公開するお庭は、花仲間のホームページ(右記QRコードからアクセス)をご覧ください。



▲小久保庭

ふっかちゃんの日常から 深谷が見えてくる

ふっか 散歩

今日は、秩父鉄道の小前田駅から徒歩10分の所にある、平成17年オープンの花園こども情報交流図書館(アクロス)にやってきましたよ。外壁がきれいになって、4月からはフリーWi-Fiサービスが始まったんだあ。さっそく行ってみよう!



▲埼玉県産のスギやヒノキをたくさん使った平屋造りだから、木のいい香りがして温かいんだあ。



▲2階のロフトからは館内が見渡せて、気持ちがいいよあ!



▲3万7,000冊も本があるうち、児童書は2万2,000冊もあるんだよあ!次は何の絵本を読もうかなあ。選ぶ時間も楽しいんだよあ~。

ふっかちゃんのつ・ぶ・や・き
プロックリーが指定野菜の仲間入り!深谷はネギだけでなく、プロックリーの農業産出額も1位だよあ!Y(o0w0o)Y

心の広場

常盤小学校3年
町田 琉仁さん



休み時間とぼく

「今日の休み時間は、だれとあそぼうかな。」いつもあそんでいる友だちを見つけたので、「いっしょにあそぼう。」と声をかけたら、Aくんはこっちを見て、「やだ。」と言って、ほかの友だちと走って行ってしまいました。ぼくは、ななまはずれにされたのです。かなしい気持ちにおしつぶされそうになって、ないてしまいそうになりました。楽しいはずの算数も、ちがう教室にいたみたいでした。

昼休みになり、BちゃんとCちゃんが、「いっしょにあそぼう!」とさそってくれたのです。ぼくはその言葉が本当にうれしかったです。でも、やっぱりAくんのあの顔が忘れられません。どうしてぼくをななまはずれにしたんだろう。でも、今はやさしくなって、ななまはずれになんかしてないかもしれない。ぼくは、もう一度Aくんに声をかけてみることにしました。

「入れて。」するとAくんは、「いいよ。」前とはちがって、えがおでした。なんだ、この前はなんだったんだよ?よくわからないけど、気持ちがやわらかくなって、いっしょにたくさん走って、たくさん笑いました。「明日もいっしょにあそぼう!」といってくれました。そういわれた時、空をとんでいるような、どこまでも走っていきたくいような気持ちになりました。「うん!毎日あそぼう!」ぼくは元気よくいえました。すごくうれしくなりました。それからぼくは、ある作せんを考えました。「いっしょにあそぼう、ぼくから作せん」です。みんなでいっしょにあそべるように、どんどん声をかけるのです。いっしょにいっしょにあそんだあとは、何だか勉強も楽しく感じてやる気が出ます。あの時のAくんは、たまたま意地悪な気持ちになってしまっただけかもしれない。ぼくは、ゆるしてあげようと思いました。

人けんとは、だれもが生まれた時からもっている、幸せに生きるけんりのことです。だれかをきずつけてはいけないし、自分も大切にしないといけない。しづさわえい一おうのお母さんは、「自分だけがうれしいんじゃないって、みんながうれしいのが一番なんだ。」と言いました。ぼくは本当にそうなんだなと思いました。次の休み時間には、だれと何をあそぼうかな。

※学校・学年は受賞当時のものです